

将来計画(2021～2030 年度)に対する自己点検評価報告(2024 年度)

自己点検・評価委員会

1. 自己点検評価の対象

2024 年度の自己点検評価は、新潟医療福祉大学将来計画の第一期中期目標・中期計画(2021～2025 年度)のアクションプラン(2024～2025 年度)の 2024 年度分について実施した。ドメイン 1～10 のアクションプランの総数は 279 項目で、そのうち 2024 年度自己点検の対象は 277 であった。なお、自己点検評価は、各ドメイン責任者が以下の 4 つの尺度で達成状況を自己点検し、その結果について自己点検・評価委員会、内部質保証委員会および総務会にて審議・承認した。

<自己点検評価の尺度>

- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 4 点 | 達成／ほぼ計画どおり（達成度 90%以上） |
| 3 点 | 部分的達成／一部達成あるいは計画より遅れている（達成度 51-89%） |
| 2 点 | 遅延／大幅に遅れている（達成度 11-50%） |
| 1 点 | 未着手／ほとんどもしくは全く着手できていない（達成度 10%以下） |

ドメイン		総アクション プランの数	2024 年度 実行計画分
ドメイン 1	大学拡充計画の推進	10	10
ドメイン 2	教育の質保証 (CP と DP を含む)	43	43
ドメイン 3	学生支援の充実 (AP と入試広報を含む)	53	53
ドメイン 4	研究機能の強化 (産官学連携の推進を含む)	44	42
ドメイン 5	社会連携の強化 (同窓会と生涯学修の支援推進を含む)	14	14
ドメイン 6	国際交流の推進	29	29
ドメイン 7	大学スポーツ振興の推進	25	25
ドメイン 8	学生募集の強化	22	22
ドメイン 9	組織マネジメント	21	21
ドメイン 10	内部質保証	18	18
	計	279	277

2. アクションプランの達成状況

アクションプランの 2024 年度の達成状況は、全体で 4 点「達成／ほぼ計画どおり（90%以上）」が 134 件 (48.4%)、3 点「部分的達成/一部達成あるいは計画より遅れている（51～89%）」が 121 件 (43.7%)、2 点「遅延/大幅に遅れている（11～50%）」が 22 件 (7.9%)、1 点「未着手/ほとんどもしくは全く着手できていない（10%以下）」が 0 件 (0%) であった。

ドメイン別にみると、4 点の割合は、ドメイン 3 で最も高く、次いでドメイン 10、ドメイン 1 と続いている。一方、2 点の割合が高かったのは、順にドメイン 1、ドメイン 6、ドメイン 9 であった。

ドメイン別の詳細な状況は、ドメイン別評価尺度別度数（表 1）およびドメイン別アクションプラン達成状況（図 1）を参照。

表1 ドメイン別評価尺度別度数

ドメイン		2024年度 実行計画分	評価			
			4点	3点	2点	1点
ドメイン1	大学拡充計画の推進	10	6	1	3	0
ドメイン2	教育の質保証	43	17	25	1	0
ドメイン3	学生支援の充実	53	35	18	0	0
ドメイン4	研究機能の強化	42	19	20	3	0
ドメイン5	社会連携の強化	14	4	9	1	0
ドメイン6	国際交流の推進	29	14	7	8	0
ドメイン7	大学スポーツ振興の推進	25	8	15	2	0
ドメイン8	学生募集の強化	22	12	10	0	0
ドメイン9	組織マネジメント	21	8	10	3	0
ドメイン10	内部質保証	18	11	6	1	0
		計	277	134 (48.4%)	121 (43.7%)	22 (7.9%)
						0 (0%)

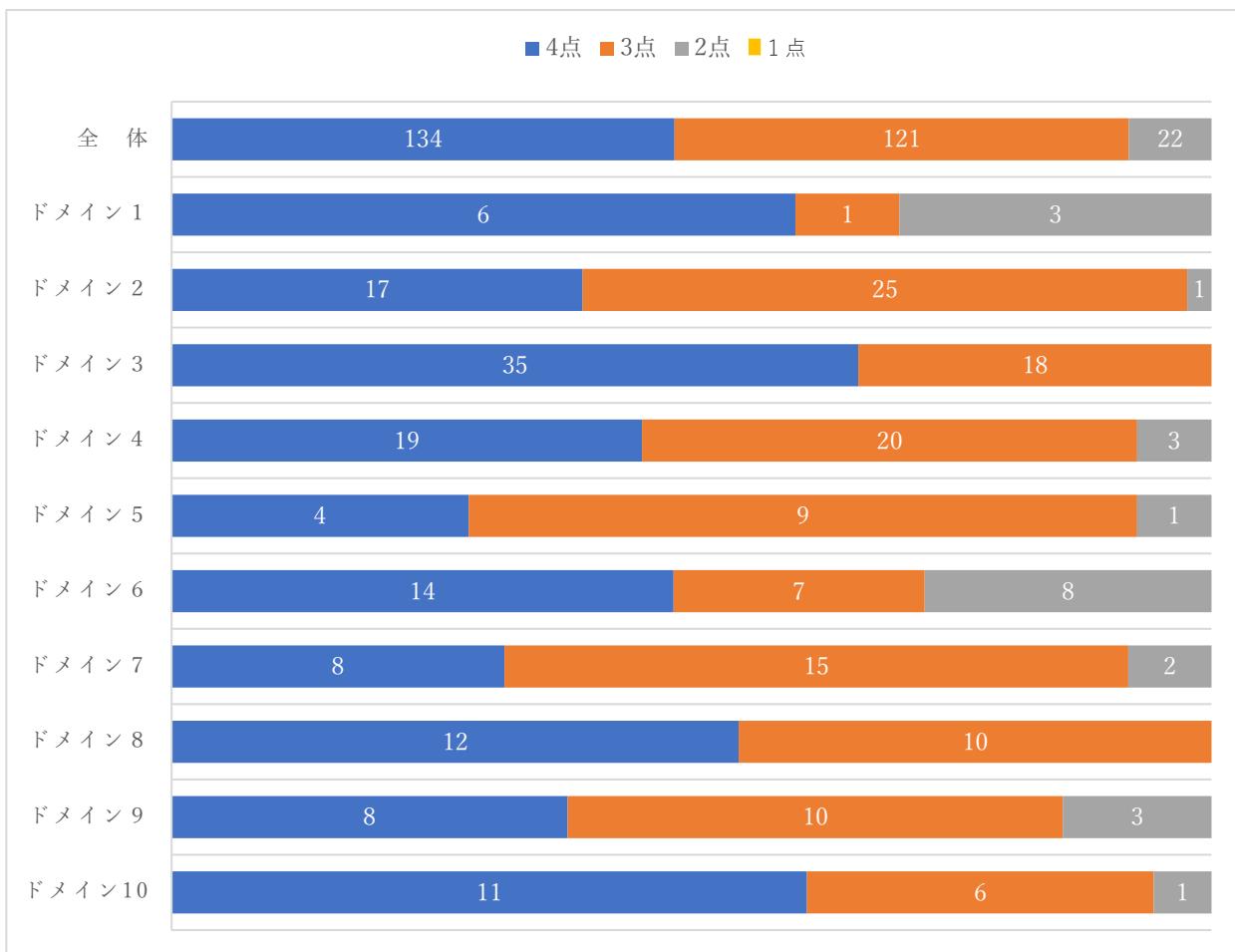


図1 ドメイン別アクションプランの達成状況(2024 年度)

3. 評価

2024 年度アクションプランに対する自己点検評価を実施した結果、4 点「達成/ほぼ計画どおり（90%以上）」が全体の 48.4% を占めているものの、3 点「部分的達成/一部達成あるいは計画より遅れている（51～89%）」が全体の 43.7% を占めており、各推進部署において、やや計画が遅れて進捗しているアクションプランが約半数を占めることが伺える。

4 点評価の割合が最も低いドメイン 5 「社会連携の強化」については、自治体や関係団体等との連携推進のための連携体制が不十分であることや、同窓会活動推進のための体制構築の遅れが進捗の遅れの要因であると分析されるため、2025 年度は推進体制について見直しを図る必要がある。

併せて 2 点評価であったアクションプラン（計 22 項目）については、2024 年度の進捗状況を踏まえ、以下のとおり改善を進める。

【未達成アクションプランの状況と改善方策】

《ドメイン1》大学拡充計画の推進

■ 中期計画 2-4

持続的に発展する大学像に則した学修環境の整備案を検討する。

アクションプラン 2

- 研究環境の充実を図るため研究棟の建設に向けた計画を行う。

(自己評価) 2

(進捗状況) 物価高騰等により財源確保の見通しを見直す必要が生じたことにより、予定していたスケジュール通りに計画推進できなかった。

(改善方策) 学長、担当副学長とも連携・情報共有しながら、2025 年度よりプロジェクトチームを発足し、2026 年度着工、2027 年度開設を目指す計画を策定する。

■ 中期計画 3-1

健康・スマート学園都市構想による北側用地の開発計画を立案する。

アクションプラン 1

- 健康・スマート学園都市構想（A T プロジェクト）との連携を図りながら開発計画を立案する

(自己評価) 2

(進捗状況) 大学周辺の土地の売買および開発計画案の策定は進めたが、新潟市の市街化調整区域指定に島見エリアが選定されなかったことにより具体的な計画立案には至らなかった。

(改善方策) 2024 年度以降、アクションプラン 4 「食・農および環境分野を基盤とする SDGs の達成に貢献する新たな学部学科等を構想し年次計画案を策定する。」に含む計画として継続的に検討・対応する。

■ 中期計画 3-2

健康・スマート学園都市構想による南側用地の開発計画を立案する。

アクションプラン 2

- 健康・スマート学園都市構想（A T プロジェクト）との連携を図りながら開発計画を立案する。

(自己評価) 2

(進捗状況) 大学周辺の土地の売買および開発計画案の策定は進めたが、新潟市の市街化調整区域指定に島見エリアが選定されなかったことにより具体的な計画立案には至らなかった。

(改善方策) 引き続き、健康・スマート学園都市構想（AT プロジェクト）会議を定期開催する。併せて、北区とも連携しながら、2025 年 8 月を目途に、当該地区の開発計画（施設整備計画、年次スケジュール等）を策定し新潟市に提示する。

《ドメイン2》 教育の質保証（CP と DP を含む）

■ 中期計画 1-1

教育関連組織体制を構築し、本学の教育の質保証を確立する。

アクションプラン 5

- アセスメントプランに基づき、大学院生の学修成果を 3 つのレベル（大学、教育プログラム、授業）で可視化・公表するとともに、教育課程の充実に繋げる。

(自己評価) 2

(進捗状況) アセスメントプランに基づき、大学院生の学修成果を 3 つのレベル（大学、教育プログラム、授業）で可視化・公表するために必要な方針（アセスメントプラン）および大学院が求める学修成果を示す文書については、策定を完了している。また、学修成果の把握・評価結果を教育内容・方法・学修指導の改善にフィードバックする体制についても構築済みの段階である。

(改善方策) 学校教育法施行規則（文部科学省令）の一部改正に対応するため、2025 年度より、大学院における学位授与の状況に関する情報を公表する。具体的には、「標準修業年限以内で修了した大学院生の占める割合」や「その他学位授与の状況に関すること」を公表し、透明性を向上させる。さらに、把握・評価した学修成果については、教育内容や方法、大学院生への指導の改善につなげる。

《ドメイン4》 研究機能の強化（産官学連携の推進を含む）

■ 中期計画 4-1

大学院教育・研究体制を強化する。

アクションプラン 1

- 大学院担当教員を増員する（2025 年度 修士〇合 150 名、博士後期課程〇合 80 名）。

(自己評価) 2

(進捗状況) 大学院担当教員審査の基準の見直し、教員の研究活動支援の拡充および教員採用における大学院教育への参画依頼、博士取得率向上に向けた目標設定等を実施し、増加傾向にある。

(改善方策) 博士をもっていない教員の大学院進学を促す方策を検討する。また、収容定員増加計画に合わせて、大学院教育に対するインセンティブ等、収支バランスを踏まえた方策を検討する。

アクションプラン 2

- 教職員の大学院教育への積極的な参画を促す方策を検討する。

(自己評価) 2

(進捗状況) 大学院教育への積極的な参画を含め、大学院定員増に向けたリソースの整理を進め

た。

(改善方策) 2027 年度以降の収容定員増計画の中で、収支バランスを踏まえた検討を進める。

《ドメイン5》社会連携の強化(同窓会と生涯学修の支援推進を含む)

■ 中期計画 3-3

社会連携および同窓会・生涯学修の支援力を強化する。

アクションプラン 1

- 社会連携を支援する事務局体制をさらに強化する。

(自己評価) 2

(進捗状況) ボランティア支援について活動する学生が多くなってきたことから、事務局体制を強化することを事務局に提案した。

(改善方策) 事務局体制の強化について協議を進めていく。

《ドメイン6》国際交流の推進

■ 中期計画 1-2

国際交流締結校との締結内容を戦略的に拡充する。

アクションプラン 2

- 留学生獲得を目的とした MOU を締結する。

(自己評価) 2

(進捗状況) 相手校に対してのインセンティブを検討中である。

(改善方策) 資金的な支援の強化が必要となる。入学金免除について提案していくとともに、授業料の免除について検討する。

■ 中期計画 1-3

人材育成を目的としたアジアでの拠点づくりを進める

アクションプラン 2

- JASSO 海外留学支援制度（協定受入）等への申請を継続する。

(自己評価) 2

(進捗状況) 2022 年度、2023 年度と連続して申請してきたが、2024 年度は申請ができなかった。

(改善方策) 2025 年度は申請を進める。

■ 中期計画 1-4

アジアで秀でる大学となるため、国際的な発信力を強化する。

アクションプラン 2

- 海外で活躍している、またはそうした経験を持つ卒業生の情報を集約し、国内外に発信する。

(自己評価) 2

(進捗状況) 国際交流センターの既存の Facebook に掲載することは決定しているが、情報の集約が進んでいない。

(改善方策) 2024 年度末に向けて、情報の集約方法などを広報部会で引き続き検討し、2025 年度には Facebook で発信する。

アクションプラン 4

- 留学生獲得を目的とした大学院案内動画や本学の研究活動を幅広く紹介するツールをアップデートする。

(自己評価) 2

(進捗状況) 既存の動画素材はあるが、どの内容をアップデートすべきかについて調査がされていない。

(改善方策) アップデートの必要性について検証し、必要があれば 2025 年度にアップデートする。

■ 中期計画 2-1

学生の海外研修制度を拡充し、学生のグローバル意識を向上させる。

アクションプラン 3

- 海外での修学・就職等に結びつけ、その情報を学内外に発信する。

(自己評価) 2

(進捗状況) 海外研修の体験者に、トビタテ留学への応募を促している。

(改善方策) 既に、海外で修学・就職した学生などの情報も含めて、国際交流センターの Facebook に掲載していく。

■ 中期計画 2-3

国内で体験できる国際交流の機会を充実させ、組織的に強化する。

アクションプラン 3

- 国際交流センター所属の国際交流専門教員の採用について検討を継続する。

(自己評価) 2

(進捗状況) 検討はされているが、具体的な提案に至っていない。

(改善方策) 国際交流センターは学長直轄の機関であるので、2025 年度には国際交流センターの視点からの提案をする。

■ 中期計画 3-2

留学生の QOL 向上のために、留学生受け入れ体制を整備・強化する。

アクションプラン 6

- DX を推進し、在外邦人や留学生が、ハイブリッド型教育によって学位取得が可能な体制（ソフト・ハードの両面）を検討する。

(自己評価) 2

(進捗状況) 複数の委員会がかかわる事項であるので、国際交流センターとしての関わりが明確ではなく検討がすんでいない。

(改善方策) 国内に居住せず、海外居住状態での本学大学院生としての活動の可否・その範囲について、入出国管理の観点からの情報を収集し、関係部署・指導教員と共有する。

■ 中期計画 3-3

国際交流会館(仮称)について検討する。

アクションプラン 1

- 国際交流会館の設置について検討し、提案書を作成する。

(自己評価) 2

(進捗状況) 国際交流会館を検討する前段階として、現在の学内の国際交流ラウンジの運営方法について検討を開始している。

(改善方策) 国際交流ラウンジの運営・活動状況をふまえて、国際交流会館の可能性について検討し、その結果をまとめ学長に提案する。

《ドメイン7》大学スポーツ振興の推進

■ 中期計画 4-1

大学施設を活用した地域スポーツの拠点づくりを推進する。

アクションプラン 3

- 大学施設を活用したホームゲームの開催を検討する。

(自己評価) 2

(進捗状況) ホームゲームを通じたファン醸成活動について、対応クラブ・スケジュール・安全面の確保など多方面において検討事項があり、実施に至っていない。

(改善方策) より充実したイベントとするために、スポーツ庁委託事業やその他補助金事業と絡めながら推進し、実施に向けた具体的なスケジュールを明確にしていく。

■ 中期計画 5-2

安心・安全なスポーツ環境を構築する。

アクションプラン 2

- 学生アスリートへ一次救命処置講習を義務化導入する。

(自己評価) 2

(進捗状況) 一次救命処置講習の実施は、各クラブでバラバラの状況であり、全員一斉とした実施には至っていない。

(改善方策) 強化指定クラブ学生を対象とした初年次教育として、毎年8月に実施を検討する。また、救急救命学科と連携をした取り組みとして持続可能なものとする。

《ドメイン9》組織マネジメント

■ 中期計画 1-2

教学マネジメント基盤を強固にする。

アクションプラン 2

- 「大学全体」「学位プログラム」「授業科目」レベルに分けた FD・SD を実施し本学の教育方針を共有する。

(自己評価) 2

(進捗状況) 各レベルに分けた FD・SD を企画しなかったために FD・SD の内容に偏りが生じた。

(改善方策) FD・SD 推進委員会の上位機関である教育・学生支援機構と連携し、教育の質保証の観点から、レベルに分けた FD・SD の年間計画を立てて実施する。

■ 中期計画 2-1

事務局運営体制を強化する。

アクションプラン 2

- 管理職者（事務局長、部長、課長）のマネジメント力を向上させるために研修等の実施を強化する。

(自己評価) 2

(進捗状況) 教員に対しては学科長研修を実施したが、職員に対しては大学独自の管理職研修が実施できていない。

(改善方策) 管理職研修は国際総合学園人事部主導で既に実施されているため、新潟医療福祉大学事務局としての独自の研修として何が必要なのかを抽出して具体的な研修プランを立案する。

■ 中期計画 4-1

教職員の業績評価および人事考課を見直す。

アクションプラン 1

- 教職員のエンゲージメントに関する意識調査を実施する。

(自己評価) 2

(進捗状況) 職員の「人材活性状況調査」に類する意識調査を計画中。アイデア出しの段階で具体的な立案までは進んでいない。

(改善方策) 「人材活性状況調査」を実施している国際総合学園人事部に取材し、教員に相応しい調査方法、調査項目を立案する。

《ドメイン10》 内部質保証

■ 中期計画 2-2

学内業務のシステム化を推進するための組織づくりとシステム化に向けた諸施策を進める。

アクションプラン 2

- 学内に情報システムを管理する組織を設置する。

(自己評価) 2

(進捗状況) 情報システムの担当者を総務課内に配置し、増員の検討もしているが専門組織としての設置は現在ない。

(改善方策) すぐに解決できる課題ではないが、ひきつづき設置について検討を行っていく。

以 上